

○高等植物分布資料 (28) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (28)

○ミカワバイケイソウ *Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake は三河国南設楽郡の山地で発見されてから今までわずか数か所で採集されただけで、他の生育地は知られていないものである。1963 年 6 月、意外にも三河国から遠く離れた信州伊那郡の飯田市の南部 (飯田から約 10 km 南) に生育していることが確認できた。生育地は飯田市山本・竹佐・久米 (旧下伊那郡山本村) 及び二つ山北麓 (旧伊賀良村) である。いずれの生育地も標高 500~800 m の間に存在し、林際や陽性湿地である。花期は 6 月上・中旬。標本は東大にいらてある。

○ヤマイワカガミ *Shortia ilicifolia* (Maxim.) Takeda var. *intercedens* (Ohwi) Yamazaki は甲斐御岳、富士山西麓から甲斐・駿河・遠江の山地に分布し、天竜川をこえて、三河国北設楽郡段戸山に達しているもので、東海地方に分布が限られているものとされている。赤石山脈の甲斐・駿河側だけで信濃側ではまだ知られていない。1962 年 5 月 3 日、天竜峽の南方 5 km ほどの信濃国下伊那郡下条村大久保で新たな生育地を発見した。生育地は天竜川の西で、粒良脇川という支流に面した標高 500 m ばかりの急な斜面であった。コナラ、アラカシ、アオキ等がよく育っている林に数も比較的多く生育していた。採集時にすでに花期に入っていた。花色は僅かに紅をふくむ白色である。信州で初発見であると共に、天竜川を越えた生育地としても、段戸山に次ぐ地点である。標本は東大にいらてある。

○ウラハグサ *Hakonechloa macra* (Munro) Makino 「下伊那の植物」(1947 年刊) の p. 97 から p. 121 の間に記載されている植物の一部が標本に作られて長野県下伊那郡大鹿村立大河原小学校に保存されている。それらは主として昭和 5・6 年に下伊那教育会自然調査部委員会が企画し、小泉秀雄氏指導のもとに遠山川・小渋川・鹿塩川を結ぶ中央構造線地帯の植物を調査した際作成したものである。標本の中にウラハグサ (大鹿村釜沢板屋 Aug. 31, 1930) がある。現地大鹿村では小渋川の上流、釜沢板屋地籍の岩壁に多数生育している。更に、同村内には青木川の上流燕岩という石灰岩の岩壁や、鹿塩川と小渋川とが合流するあたりの落合地籍の岩壁に点在する。本種は秩父が分布の東北限であるが、信濃国では、遠山川、青木川の谷を北上している。現在では大鹿村落合の発電所堰堤近くの岩壁に生育するものが最北端のようである。なお、竜西地方といわれる天竜川の西側木曾山脈の伊那谷側では今までのところ生育を認めていない。

(浅野一男, 長野県飯田市立山本中学校)

□倉田 悟: 樹木と方言 pp. 158. 地球出版株式会社 (1962, 11 月) ¥ 430. 著者が各雑誌へのせた山村行の記事で、植物名ことにそれぞれの地方での方言が主体となっている。氏独特の文章の中に深く集積した語彙と関連民俗との比較から生れる語源考が随処にみられて楽しいと共に教えられる。単に採集するだけが楽しみという以上の方々に一読をおすすめする。

(前川文夫)